

## Press Release

# 新たな境地を切り開く唯一無二のメイン・モニター 「8381A」を発表

株式会社ジェネレックジャパン（代表取締役：村井幹司、本社：東京都港区）は、フィンランドのスピーカー・ブランド、Genelec（ジェネレック）の新しいメイン・モニターとなる The Main Ones シリーズ「[8381A](#)」を発表します。



8381A は、これまでのメイン・モニターの常識を大きく変える、唯一無二の新製品です。Adaptive Point Source™（アダプティブ・ポイント・ソース）デザインによる、フリースタANDING型を採用した 8381A は、卓越した精度と音場表現、これまでに例を見ない低域のコントロール、そして高解像度のイメージングを備えています。設置された部屋やシステムなどの再生環境に依存することなく、一貫したフルレンジ・サウンドを実現したメイン・モニターです。

フリースタANDING型を採用したことによって、リスナーに最適な位置に設置することを可能とし、従来のラージ・モニターで生じるリスニング・ポジションの高さの違いによって生じる音色の変化も解決しています。

また、音響軸内／軸外を問わずフラットなレスポンスを実現する DCW™ (Directivity Control Waveguide) テクノロジーによるウェーブガイドや、徹底的にポイント・ソース理論を突き詰めた Genelec 独自の MDC™ (Minimum Diffraction Coaxials) ミッドレンジ／ツイーター、時間領域における完璧な整合性を保ち、最低域の周波数帯まで正確なイメージングとナチュラルな音場表現を可能とする PCD™ (Point Source Continued Directivity) テクノロジーなど、Genelec の 45 年に渡る情熱の全てを注ぎ込んだ製品となっています。

さらに設置空間に対してスピーカーを最適化させる [GLM™ \(Genelec Loudspeaker Manager\) ソフトウェア](#)とも密接に連携。クラウド上で動作する最新のキャリブレーション・アルゴリズム AutoCal 2 と、フロントとサイドに合計 3 基搭載されたウーファーに適用される WooferCal の 2 つのアルゴリズムを使用することで、部屋の影響を受けることなく、優れた解像度と最高水準の低域コントロールを実現しています。

また、室内の音響処理やリスニング・ポジションの調整、ベース・マネージメントの最適化など、モニター環境を詳細に分析して音響的な問題に対する具体的なアドバイスを提供する [GRADE™ \(Genelec Room Acoustic Evaluation\) レポート](#)にも対応。モニタリング/リスニング環境を向上させる画期的な機能も備えた唯一無二のモニター・スピーカーです。

8381A は、2023 年 11 月 15 日 (水) ~17 日 (金) の 3 日間、千葉・幕張のホテル・ニューオータニにてお披露目予定です。

詳しくは、ジェネレックジャパンまでお問い合わせください。

## | 8381A SAM™アダプティブ・ポイント・ソース・メイン・モニター



### ■ 詳細ページの URL

[www.genelec.jp/main-studio-monitors/8381a/](http://www.genelec.jp/main-studio-monitors/8381a/)

## ■The Main Ones 「8381A」 の特徴

### 最適な場所への設置を可能とするフリースタANDING設計

8381A は、リスナーにとって最適な位置に設置することができるフリースタANDING型を採用。同時にポイント・ソース・デザインを採用することで、近距離から長距離までの広いリスニング距離に対応します。また、リスニング距離によってスピーカーを最適な角度へ調整できるよう、4度と8度の調整用ウェッジが付属。さらにはオプションで、ミキサー卓等の後ろに設置する際にスピーカーの高さを合わせることでできるエクステンション・ブロックを用意するなど、モニタリングに対する様々な設置ニーズにも対応します。



※最短距離となる 1m では最大音圧レベル>126dB、10m でも>106dB を出力

### Genelec による全く新しい設計のドライバー

#### Minimum Diffraction Coaxial (MDC) と Quad Midrange System (QMS)



ポイント・ソース理論を徹底的に突き詰めた 8381A では、新たに Genelec が開発/設計した新開発の同軸ミッドレンジ/ツイーターの MDC™ (Minimum Diffraction Coaxial) を採用。中心に Φ25mm、スロート長 13mm のコンプレッションツイーターを配置した、127mm (5 インチ) のドライバーです。その周りを囲むように配置された4つのドーム型ドライバーからなる QMS (Quad Midrange System) は、大きな面積のウェーブガイド DCW™ (Directivity Control Waveguide) により広帯域にわたって指向性を制御。音響軸内/外を問わずフレットなレスポンスを実現し、部屋の残響がサウンドに与える影響を極限まで抑えています。



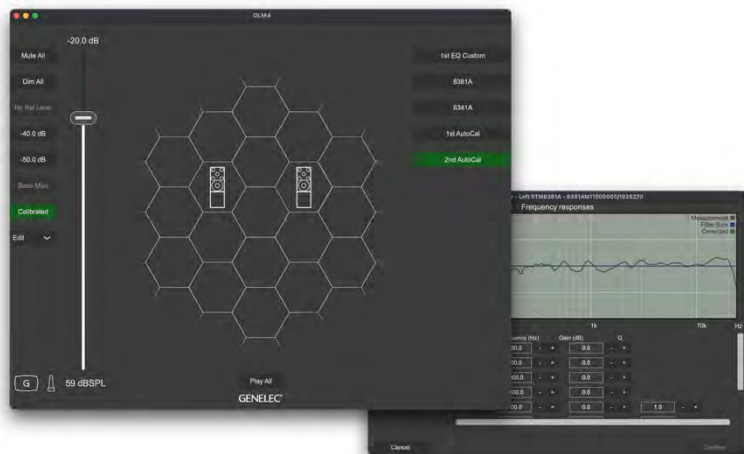
## 最高レベルの低域コントロールを実現する LF アダプティブ・テクノロジー



筐体構成となる 8381A には、トップ・エンクロージャのフロントに搭載された 1 基のウーファーに加え、ボトム・エンクロージャに LF アダプティブ・テクノロジーによる 2 基のサイド・ウーファーを搭載。GLM ソフトウェアに実装されたアルゴリズム、WooferCal によるキャリブレーションを行い、音響的に生じた落ち込み（ノッチ）を最小限に抑えることに成功しています。

## GLM ソフトウェアとの連携による「制約」からの解放

Smart Active Monitoring (SAM™) システムのメイン・モニターとなる 8381A は、設置環境に合わせてスピーカーを最適化する GLM™ ソフトウェアに対応。クラウド上で動作するこれまで何千ものスタジオでの測定データに裏付けられたキャリブレーション・アルゴリズム AutoCal 2 と



WooferCal により、再生環境に依存しない、どこでも一貫したバランスで再生されるミックスを制作することを可能とします。さらに、室内音響における反射やモニター・セッティング、リスニング・ポジションの調整、ベース・マネージメントの最適化など、室内音響を分析し改善へ向けたアドバイスを提供する GRADE™ (Genelec Room Acoustic Data Evaluation) レポート機能にも対応します。

設計から生産まで、すべての工程をフィンランド・イーサルミの本社工場で実施



トップ・エンクロージャ、ボトム・エンクロージャ、そしてそれぞれを駆動する2基のアンプから成る 8381A は、設計から製造まで、すべての工程をフィンランド・イーサルミの湖畔にある本社工場にて行っています。Genelec のエンジニアリング・チームによって綿密に設計、最適化された結果、比類無いパワーと妥協を排したサウンドを実現し、どんなに要求の厳しい要件にも対応できる最高品質のモニタリング・スピーカーとなっています。

## ■ システム仕様

周波数特性	低域カットオフ -6dB : 20 Hz 高域カットオフ -6dB : 35 kHz
音圧レベル	最大音圧レベル : ≥129 dB (ペア毎の最大音圧レベル) 瞬間最大音圧レベル : ≥126 dB (軸上、半空間、1m、100 Hz ~ 3 kHz 全高調波歪 < 10 % f < 200 Hz、全高調波歪 < 3 % f > 200 Hz) 最大長期 RMS 音圧レベル : ≥121 dB (IEC 規定のテスト信号による最大長期 RMS 音響出力、ドライバー保護回路による制限あり、1 m、半空間)
サイズ	1458H×500W×694Dmm エンクロージャ 1 のサイズ : 880H×500H×694Dmm エンクロージャ 2 のサイズ : 570H×500H×694Dmm アンプ RAM-81 : 19 インチ ラックマウント 3U
質量	エンクロージャ 1 : 75kg エンクロージャ 2 : 75kg アンプ RAM-81 (1 台あたり) : 11kg
エンクロージャ素材	MDF
ドライバー	サイドウーファー×2 : コーン、直径 381mm (15 インチ) フロント・ウーファー : コーン、Φ381mm (15 インチ) ミッドレンジ (QMS) ×4 : ドーム、Φ127mm (5 インチ) 同軸ミッドレンジ : コーン、Φ127mm (5 インチ) 同軸ツイーター : コンプレッション、Φ25mm (31/32 インチ)、ボイスコイル Φ25mm (1 インチ)、スロート 13mm (0.5 インチ)
クロスオーバー	サイド・ウーファー/フロント・ウーファー : 50-100 Hz (可変) フロント/QMS : 150-250 Hz (可変) QMS/同軸ミッドレンジ : 500Hz 同軸ミッドレンジ/ツイーター : 1800 Hz
アンプ RAM-81	2 x RAM-81 (片 ch あたり) アンプ総出力 : 5926 W ※各アンプは Genelec 本社工場にてキャビネットに合わせて個別に調整
メイン電圧	100-240 VAC 50/60Hz

消費電力	≤1.2 W (ISS稼働時) ≤140 W (アイドル時) 2200 W (最大出力時)
接続端子	アナログ入力×2 (XLR メス、バランス、10kΩ) アナログ出力×2 (XLR オス、10kΩ) デジタル入力×2 (XLR メス、110Ω) デジタル出力/スルー×2 (XLR オス、110Ω) LAN (RJ45) ネットワーク×4 (GLM ソフトウェアでのコントロール用)
カラー	ブラック (8381AB) ホワイト (8381AW)

## ■Genelec について

Genelec のミッションはサウンドをできるだけ忠実に再現することで、お客様の夢を叶える手助けをすることです。1978 年以来、高品質のスタジオ・モニターおよびアクティブ・スピーカーを開発し続けています。他の追随を許さない Genelec の研究開発への取り組みは、数々の業界初となる製品を生み出し、アクティブ・モニターで業界を牽引する存在として活躍しています。株式会社ジェネレックジャパンは、日本のお客様に対するサービスとサポートをさらに強化し、Genelec ブランドおよび革新的技術を皆様にご紹介しています。

[www.genelec.jp](http://www.genelec.jp)

## ■本プレスリリースに関するお問い合わせ

株式会社ジェネレックジャパン 担当：浅田

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-22-21 | Tel : 03-6441-0591 | email : [press@genelec.co.jp](mailto:press@genelec.co.jp)

※高解像度画像等は、下記 URL よりダウンロードいただけます。

[www.genelec.jp/press/20231011\\_8381a-sam-adaptive-point-source-main-monitor/](http://www.genelec.jp/press/20231011_8381a-sam-adaptive-point-source-main-monitor/)